

## 本サンプルの使用方法

本サンプルは、弊社製品 Panel-Server(FA/PA/BA)及び FA-Server の「外部アプリケーション実行」アクションを利用して、ネットワークドライブを接続するサンプルです。OS 起動時にネットワーク接続が切れる場合などに本サンプルを利用できます。

- 本サンプルは Ver6 Rev3 以降で動作します。
- 本サンプルはパワーシェルを使用しています。
- 本サンプルは Windows8 以降の OS で動作します。

## サンプルのファイル構成

本サンプルのファイル構成は、下表の通りです。

|                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| ■ server               |                 |
| ■ redundancy           |                 |
| ■ security             |                 |
| make_passwordfile.ps1  | パスワード作成シェル      |
| run.bat                | シェル起動用バッチ       |
| shell_networkdrive.ps1 | ネットワークドライブ接続シェル |
| server.txt             | サンプルサーバ設定ファイル   |

## サンプルサーバ設定ファイルについて

サンプルサーバ設定ファイルでは、以下の設定を行っています。

- 「環境変数」の設定
- 「外部アプリケーション実行」アクションの設定
- アクション呼び出し用イベントの設定

### 「環境変数」の設定

メインとサブで情報が異なるものがある場合、環境変数を定義します。今回では、環境変数に定義するのは、接続するネットワークフォルダです。メインPCから見た場合、接続するネットワークフォルダはサブのもので、サブPCから見た場合、接続するネットワークフォルダはメインのものになります。

例えば

|               |             |
|---------------|-------------|
| メイン側の IP アドレス | 192.168.1.1 |
| サブ側の IP アドレス  | 192.168.1.2 |
| 共有プロジェクトフォルダ  | project     |

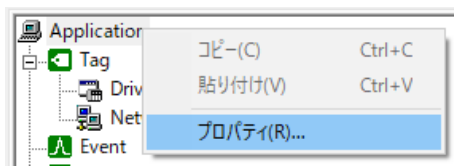
の場合、

|                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| メイン側で接続するネットワークフォルダ | ¥¥192.168.1.2¥project |
| サブ側で接続するネットワークフォルダ  | ¥¥192.168.1.1¥project |

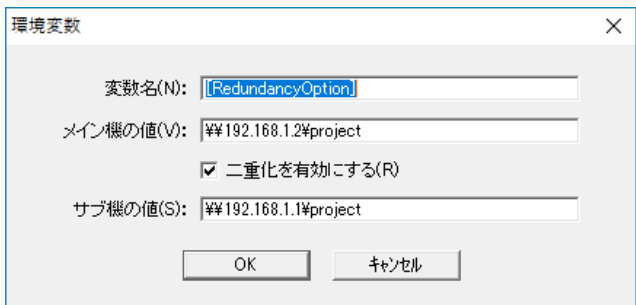
となります。

その為、環境変数を以下の通り設定します。

1. 「Application」 を右クリックし、プロパティを表示します。

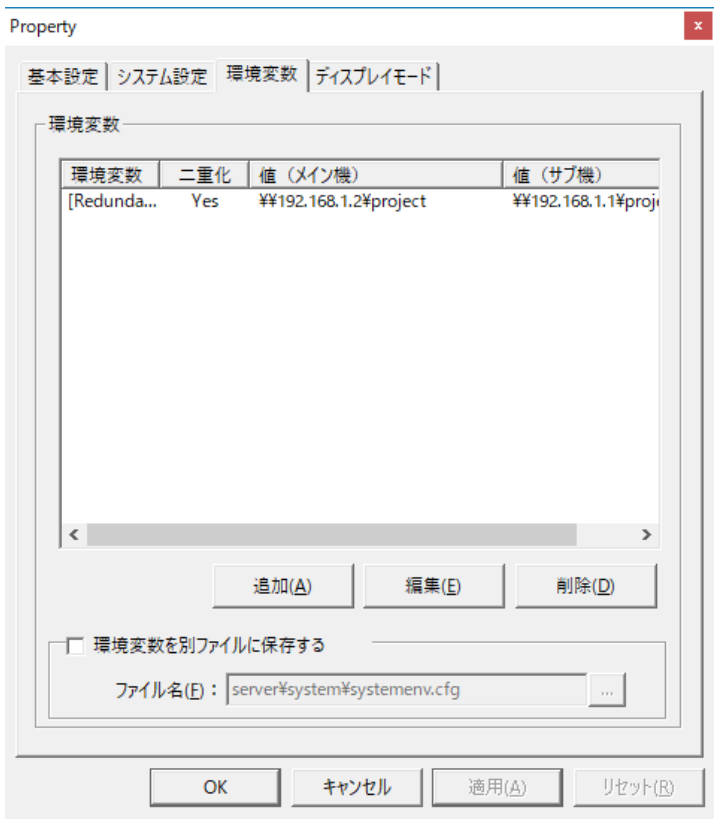


2. 「環境変数」 タブを選択し、追加ボタンで以下の情報を入力し、OK ボタンをクリックします。



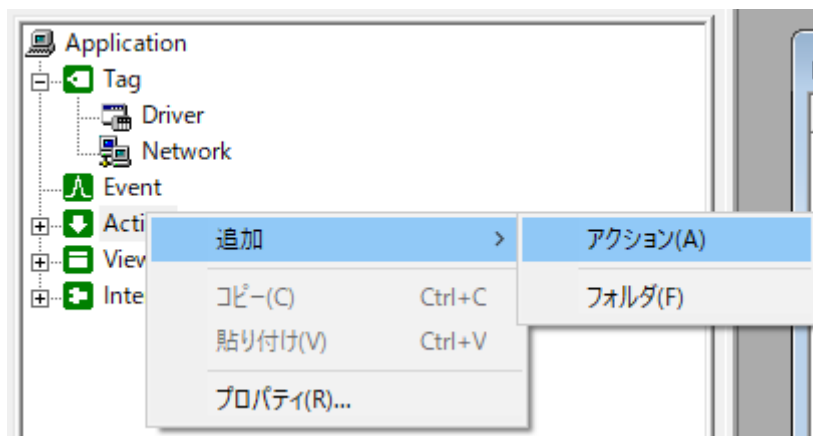
|              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 変数名          | [RedundancyOption]    |
| サブ側の IP アドレス | ¥¥192.168.1.2¥project |
| 二重化を有効にする    | チェック                  |
| 共有プロジェクトフォルダ | ¥¥192.168.1.1¥project |

3. OK ボタンをクリックします。

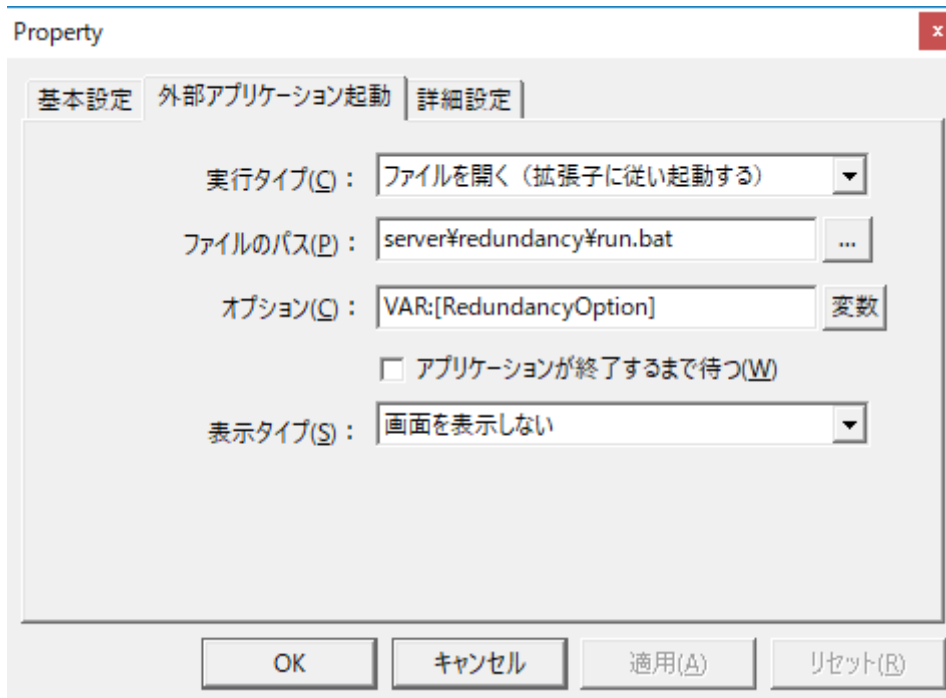


## 「外部アプリケーション実行」アクションの設定

1. 「Action」 を右クリックし、「追加-アクション」を選択します。



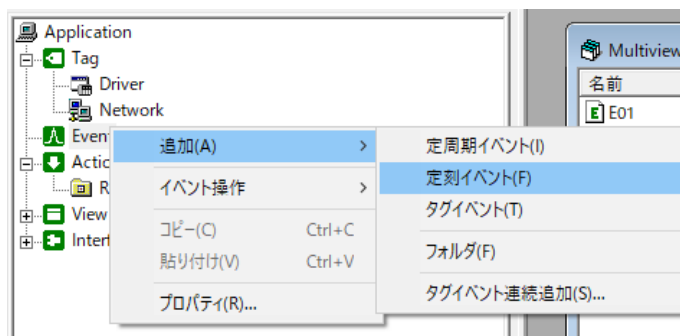
2. 追加したアクションのプロパティを表示し、「外部アプリケーション起動」の設定を行います。



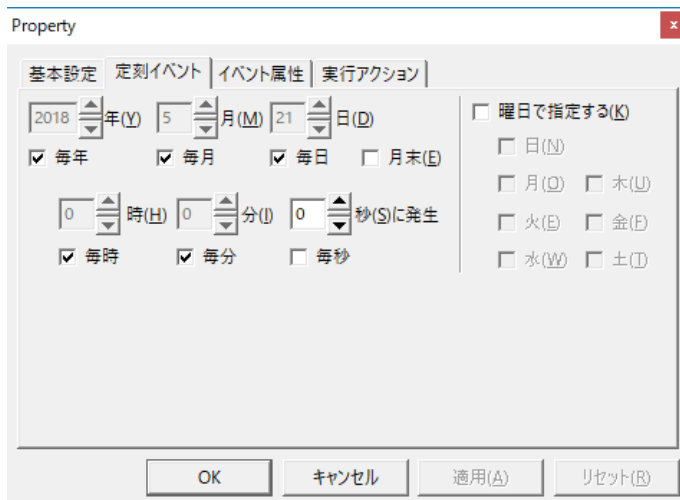
|         |   |
|---------|---|
| 実行タイプ   | 「ファイルを開く（拡張子に従い起動する）」を選択  |
| ファイルのパス | シェル起動用バッチ「run.bat」を指定   |
| オプション   | 変数ボタンをクリックし、登録してある環境変数を選択します。ここで選択した、環境変数の値をシェル起動用バッチにパラメータとして渡します。 |
| 表示タイプ   | 「画面を表示しない」を選択   |

## アクション呼び出し用イベントの設定

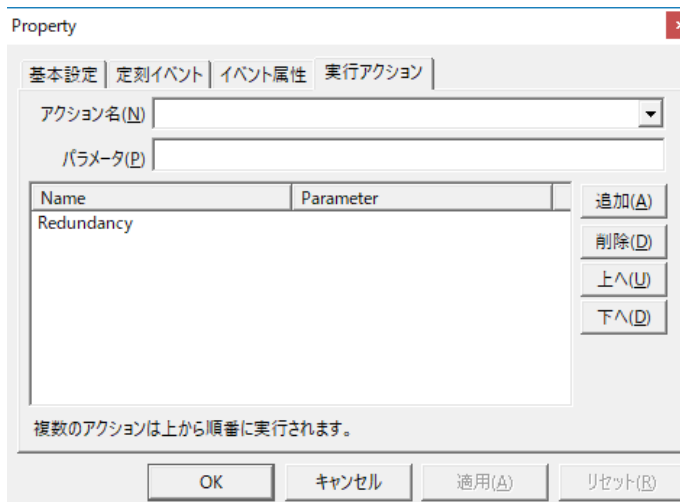
1. 「Event」を右クリックし、「追加ー定期イベント」を選択します。



2. 定期イベントとして、毎分イベントを設定します。

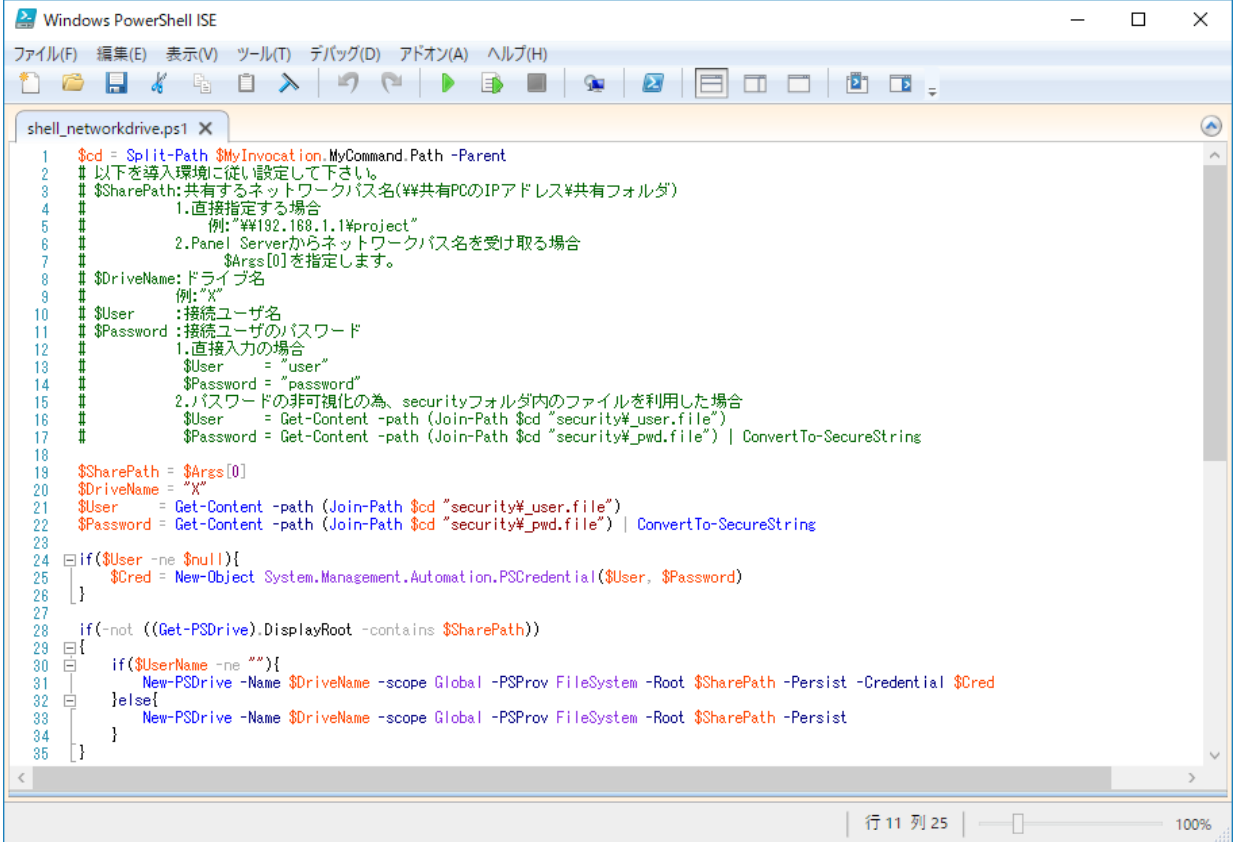


3. 実行アクションとして作成したアクションを追加します。



## ネットワークドライブ接続シェルについて

「shell\_networkdrive.ps1」を使用する環境に合わせて編集します。変更する内容については、コメントとして記述してあります。

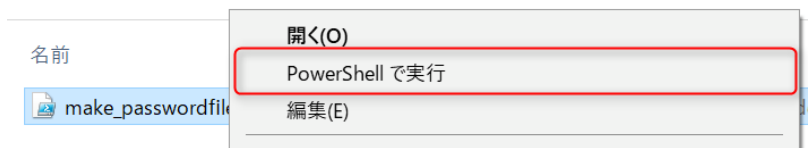


```
1 $cd = Split-Path $MyInvocation.MyCommand.Path -Parent
2 ## 以下を導入環境に従い設定して下さい。
3 ## $SharePath:共有するネットワークパス名(##共有PCのIPアドレス##共有フォルダ)
4 ## 1.直接指定する場合
5 ## 例: "¥192.168.1.1¥project"
6 ## 2. Panel Serverからネットワークパス名を受け取る場合
7 ## $Args[0]を指定します。
8 ## $DriveName:ドライブ名
9 ## 例: "X"
10 ## $User :接続ユーザ名
11 ## $Password :接続ユーザのパスワード
12 ## 1.直接入力の場合
13 ## $User = "user"
14 ## $Password = "password"
15 ## 2.パスワードの非可視化の為、securityフォルダ内のファイルを利用した場合
16 ## $User = Get-Content -path (Join-Path $cd "security¥_user.file")
17 ## $Password = Get-Content -path (Join-Path $cd "security¥_pwd.file") | ConvertTo-SecureString
18
19 $SharePath = $Args[0]
20 $DriveName = "X"
21 $User = Get-Content -path (Join-Path $cd "security¥_user.file")
22 $Password = Get-Content -path (Join-Path $cd "security¥_pwd.file") | ConvertTo-SecureString
23
24 if($User -ne $null){
25     $Cred = New-Object System.Management.Automation.PSCredential($User, $Password)
26 }
27
28 if(-not ((Get-PSDrive).DisplayRoot -contains $SharePath))
29 {
30     if($UserName -ne ""){
31         New-PSDrive -Name $DriveName -scope Global -PSProv FileSystem -Root $SharePath -Persist -Credential $Cred
32     }else{
33         New-PSDrive -Name $DriveName -scope Global -PSProv FileSystem -Root $SharePath -Persist
34     }
35 }
```

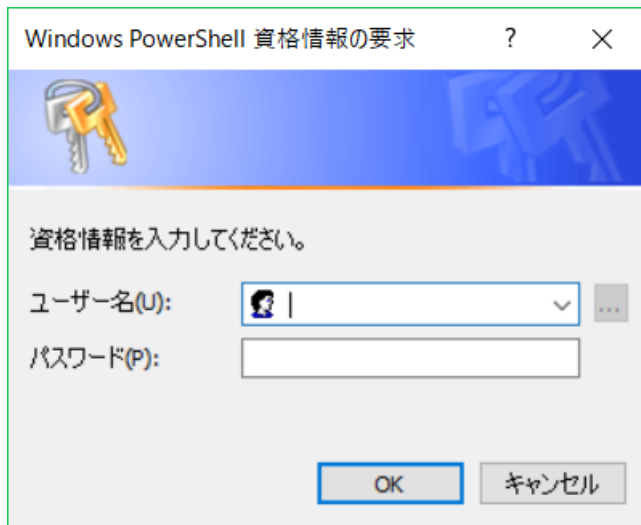
デフォルトの記述では、「X」ドライブに環境変数で定義したネットワークフォルダを接続します。その際に利用するユーザ/パスワードについては、認証ファイルのものを利用します。認証ファイルの作成方法については、次頁にて説明します。

## 認証ファイルの作成方法

1. 本フォルダ内に含まれる「make\_passwordfile.ps1」を右クリックして「PowerShell で実行」を選択します。



2. 認証に使用するユーザ名とパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックします。



3. 本フォルダにユーザファイル「\_user.file」とパスワードファイル「\_pwd.file」が作成されます。パスワードファイルの中身は暗号化されます。



本手順の認証ファイルは、配置するパソコン及びログインユーザが変わる都度、生成する必要があります。その為、実際に利用されるパソコン上の OS でログインした後、本手順を初回に 1 回実行して下さい。別のパソコン上で生成した認証ファイルでは利用出来ません。